

第4回学校運営協議会 議事録

日 時：令和6年2月2日(金) 13:00～15:00

場 所：和歌山工業高等学校 大会議室

出席者

(学校運営協議会委員)

田中 一壽氏 (和歌山商工会議所専務理事)
村田 頼信氏 (和歌山大学システム工学部システム工学科教授)
田中 資則氏 (元紀伊コスモス支援学校校長)
梅田 千景氏 (和島興産株式会社代表取締役)
前田 隆一氏 (本校全日制育友会会長)
高垣 晴夫氏 (本校同窓会副会長)
西村 保展氏 (本校同窓会副会長)
藤田 勝範 (本校校長)

(学校出席者)

阪中 潤 (全日制教頭) 高橋 洋互 (地域連携担当) 西村 康宏 (全日制進路指導部)
吉田 庄吾 (全日制教務部長) 上田 裕子 (学校評価委員会委員長)
木田 誠治 (定時制教頭)

- 【1】 開会
- 【2】 会長挨拶 (田中会長)
- 【3】 校長挨拶 (藤田校長)
- 【4】 議事 (議長：田中会長)

(1) 本年度の総括について(藤田校長)

4年ぶりのスキーの修学旅行を実施した。生徒は楽しんだようだ。
今年度初めて3年生の課題研究発表会を行った。「緊張したがよい経験であった」との声が聞かれた。
ロハスフェアへ出展をした。消費者との交流ができた。これからも発展させていきたい。
就職状況は昨年、一昨年よりも就職率は上昇しているが、5、6年前と比べるとまだ就職率は低い。
カリキュラム上理数科目が弱い。数学について和歌山大学大学院生のボランティアとともに週2回、数学B、数学C、数学Ⅲの内容の補習を行った。
来年度より2年生の夏休みに希望者による長期インターンシップを計画中。
来年度に向けて資格手帳の作成を予定している。(作成中のものを見ていただく)
生徒総会の在り方について、本年度は生徒会の要求に対して直接校長と話し合いを行った。すべての要求が容れられる訳ではないが、生徒は「参加した」という意識を持てたようだ。
スクールマスコットを考えさせたり、敷地北側に県に購入してもらった狭小地で花壇を作って管理させることなども考えている。
定時制との関係については、今年は文化祭に参加してもらった。定時制で大規模なものや費用がかかるも

のは実施できないので、来年度は観劇等にも参加できるようにしたい。

12月に本校体育館で行った企業説明会については、来年度は1年生にも県内企業の紹介をしていきたい。

校長の本年度の総括を受けて、各委員から以下のご意見をいただいた。

(委員) 修学旅行は実施できてよかった。

生徒に応じた就職指導ができていると感じた。

資格にもっとチャレンジさせてほしい。

資格手帳は、カリキュラムとの対応が見えると更に良い。

1年生からの企業説明会参加は良いことだと思う。

スクールマスコットを作るのは、学校への帰属意識が芽生えると思う。

生徒と校長が直接話し合うのはよいことだと思うので続けてほしい。

(委員) 前回、生徒会との懇談には参加できなくて残念である。

資料を見ると「尊敬できる先生がいる」ということは、非常に良いこと。

資格手帳は、支援が必要な生徒にとっても分かりやすい。

企業にも「合理的配慮」が求められるようになった。是非在学中にも合理的配慮について指導してもらいたい。

(校長) 「合理的配慮」は人権教育の1つの柱であると思う。1～3年まで系統立てて指導していきたい。
世間に出たときのために普段から意識させたい。

(委員) 全日制と定時制との連携はありがたい。

どういう意識で大学へ行くのかがわかると、進学が多く就職が減っていると、悲観することはない。

専門知識を高めたいという思いを大切にしておいてほしい。

幅広い進路があると思うが、それぞれにきめ細かい対応をお願いしたい。

(委員) 前回、目的意識を持って、「これがしたいからこの大学へ行く」という生徒がいた。

(校長) 大学で県外へ行っても県内へもどってくる生徒も多い。

(委員) はじめは工業高校の志望ではなかったが、行きたい企業があるから工業高校へ来たという生徒もいる。

インターンシップや工場見学で「これがやりたい」という生徒もいる。

またスポーツ等で進学する生徒もいる。

種々多様であるので、すべての教員で連携してきめ細かい対応をお願いしたい。

(委員) 工業高校への進学率は落ちてきている(14%→8%)。11%の壁というものがあり、それ以下になると認知度が低くなる。

中学生だけでなく小学生へのアピールも必要ではないか。

資格手帳の発想はよいと思う。カード化(一元化)できればよい。

長期インターンシップもよいと思うが、企業側も大変だと思うので、企業側の理解を深めることも必要である。産業界一体となって理解をお願いしたい。

スクールマスコットなどで和工愛を育んでももらいたい。応援歌はどうだろうか。

在学中だけでなく、卒業後も人を育てる視点で長い目で育ててほしい。

「和工の家」を作って子から孫まで利用できるものを作ってはどうか。

未来の生徒をどう確保していくかを考えなければならない。留学生の受入なども。

学校内のルール作りに関して、生徒が決めていくことによって課題解決の力をつけさせるというのはいかがでしょうか。

(委員) 1年生のインターンシップについて、設計事務所で3名がお世話になったと聞いたが、参加した生徒は、非常に意識が高く良かったと聞いた。

意識高く和工に来る子が多くなってきていると感じる。

生徒総会の要望に対する協議に育友会も入れて欲しい。

(校長) 小学生のものづくり教室(今年で2年目)は皆楽しそうであった。「ものづくり」は楽しいと小学生に広げていくのは大切である。

入試では、本校に來たい生徒もいるが、学科によっては不本意入学者もいる。

中学で進路を決めるのは難しいので、とりあえず普通科へと問題を先送りしているように感じる。

本年度からの課題研究発表会を見て、中学生にも見せたらよいのではと思った。

(委員) 商工まつりは、子供達に人気があるので和工もブースを出してみてもどうか。

スクールマスコットを作れば、着ぐるみやキャラクターのLINEスタンプを作るなど様々な分野に派生できるのではないか。

日本では難しいが、企業の協力を得て長期のインターンシップ実現できればよい。

(委員) 商工まつりでは、ブースは開けますので来てください。

和工ハウスプロジェクトはどうなっているか。

生徒会の要求、何が実現され、何が実現できなかったか。

就職率が下がっている分析は?

(教頭、事務長) 和工ハウスは、作った後のことも考えると実現させていくのは難しい。生徒と一緒に代替案も含め、どうしようか考えている。

生徒総会の要求に関しては、体育館のトイレ、シューズを履いたまま履けるスリッパについては

導入したい。ウォータークーラーの希望があったものは設置した。トイレの洋式化は教育委員会と協議中である。本館の教室内、下履化は前向きに協議中である。

(進路西村) 就職率低下についてはコロナが影響している。就職を先延ばしにする傾向が高まったのではないか。支援を要する生徒の就職については会社訪問や視察をしている。

(委員) 和工愛を醸成すると中学生や地域にも良い影響があるのではないか。
最新の設備の導入をお願いしたい。wi-fi等の整備も必要。更新する時期に来ている。

(2) 来年度の学校運営協議会について

(校長) 学校運営協議会については、大きく変えることは考えていない。
提言されたことは、「できることはすぐにやる」という精神でフットワークを軽く取り組みたい。
110周年記念は、学校だけでは完結できないため、支援をお願いしたい。

(委員) 生徒会のメンバーだけでなく、PTAの方々や先生との話し合いを企画してもらいたい。保護者の話も聞いてみたい。

(委員) 「子供真ん中社会」 傾聴が大切だと思うので、大切にして欲しい。
和工に関係している人が一堂に集まって博覧会のようなものがないか。
ウォータークーラーの話もあったが、マイボトルを持ってきて、ウォーターサーバーを設置するのもよい。
安全靴に履き替えて、実習に取り組む際に切り替えを意識させるもの大切である。
緑を使った教育。
同窓会館の有形登録文化財への登録を進めてはどうか。
アマチュア無線の需要もあるので、電波研究会だけでなく、もっと普及させてはどうか。

(委員) 生徒会のメンバーだけではなく、もっといろいろな生徒と話がしたい。
学校運営、先生方同士のコミュニケーション、マネジメントについて知りたい。
「生徒のやる気を高めるには」をテーマにした話し合いがしたい。

(委員) 商業まつりへの工業、農業の参画など、生徒にやる気を起こさせるようなことを考える。

(委員) 建築技術クラブが、建築士会との共催で「街あるき」をし、私も参加した。
非常に楽しそうにしていたのが印象的であった。

(委員) 防災について、県が貸し出しているシミュレーションができるものがある。
防災学習をしておくと災害時には役に立つので、何かに取り組んで欲しい。

(委員) 防災については大きなテーマとして指導してもらいたい。

(3) 1年を振り返って

(委員) 保護者の意見は、アンケートなどでもいいので聞いてみたい。

(委員) 支援が必要な人に何ができるかをいつも考えている。

働き続ける力をどう付けるか。自己肯定感を上げることは重要であり、そのためには自分の得意、不得意を自覚させることが大切である。

(委員) 最近、自分が学生であった昔との考え方の違いなど時代の違いを痛感する。

少しでも役に立てればありがたい。

(委員) 今年も無知と偏見を自覚した1年であった。いろいろなことを和工で学ばせてもらっている。

(委員) 和工の生徒はかわいい。素直な生徒が多い。楽しく学べる学校にしてほしい。

先生の負担も減らしてあげてほしい。

(委員) 和工生、地域で頑張ってもらいたい。

(委員) 大勢の生徒が県内で就職して頑張ってもらいたい。

この会によって和工に来てよかったという生徒が増えればよい。

(校長) 生き抜いていくことは難しいけれど、そのためにキャリア教育＝人間力をつけることが大事であると考えている。

様々なアイデアを出して、楽しく学んでいけるよう、効果的に教育活動を進めたい。

【5】 閉会 校長挨拶